

遠隔医療で患者チェック

綾川 オリーブナースが訪問

県の遠隔医療システムを

操作するスキルを身に付けた看護師・オリーブナースによる訪問診療が1日、綾川町内で行われた。看護師はタブレット型端末のテレビ電話機能を利用し、訪問先の患者の体温や血圧のデータのほか、患者の状態について陶病院（同町陶）の医師に報告。医師はテレビ電話で患者の状態をチェックするとともに、家族との

情報交換などを行った。

県は2011年、遠隔医療システムで離島やへき地医療の充実を図る「かがわ医療福祉総合特区」の指定を受けており、オリーブナース制度はその一環。看護師は電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」で患部などの情報を医師に送り、指示に従って簡易な医療を行う。この日は、オリーブナース1期生で町訪問看護ステーション所長の箸尾典美さん(39)が、町内の寝たきり状態の男性患者(38)宅を訪問。体温や血圧などを測定後、医師に「脈や血圧は落ち着いている。気管の状態もよく、呼吸状態に問題はない」などと報告。医師はテレビ電話で遠隔診療を行い、患者の顔色や気管の状態などを確認した。

患者の父親(76)は「離島やへき地ではないが、通院には支障がある。在宅看護をしている人にとってもオリーブナースはありがたい」と話していた。



タブレット型端末のテレビ電話機能を利用して患者の状態を確認する医師(画面内)とオリーブナース＝綾川町内